

## 令和4年度実績報告（RUN 伴全国版 2022 北名古屋エリア）

### 事業名

RUN 伴全国版 2022 北名古屋エリア

### 実施団体名

NPO 法人地域福祉サポートおれんじの輪

### 事業の目的

タスキをつなぐという非日常的な行動を認知症の方や家族、医療・介護事業者、一般市民を含めて7キロをおれんじ色に染めて歩くことで、認知症啓発を行う。

### 事業の概略

10月6日（木）午前

健康ドーム～西春駅～弥勒寺交差点～ヨシヅヤ南～済衆館～健康ドーム 7キロコース  
認知症当事者、介護者、市民、医療・介護従事者とともに歩き、お互い様の意識を醸成する。

### 事業の効果・成果

- ・イベントを通して多くに人や企業とのつながりができた。
- ・認知症の理解者がふえた。

### 事業を実施しての問題点

- ・実行員会少なく、事務局の負担が大きい。
- ・距離が少し長いと感じた。

### 事業の課題・今後の展望

- ・若い世代に啓発するためには、日曜日開催も検討したい。
- ・実行委員を公募し、協力メンバーを増やしたい。
- ・コースを固定するか、変更するか検討する。

### 自己評価

着目点	自己評価	自己評価コメント
・事業の紹介を積極的に行い、市民に開かれた事業でしたか	◎	タイムズ社、SNS、チラシ配布等を積極的に行い啓発した。
・事業を実施することにより、不特定多数の市民の利益増進につながりましたか	◎	100人を超える参加者があり、認知症の啓発につながった。 コース上でも応援してもらった。企業、幼稚園、介護事業所、医療機関、薬局など多くの支援を得た。

<p>・事業を通じて市民の理解や参加、協力が得られましたか</p>	◎	<p>開催前からメッセージカードの記載を依頼して、多くの方の参加を促した。当日以降も展示することで事業効果を上げた。事業所や幼稚園などが応援という形で協力していただいた。</p>
<p>・当初の事業計画、予算計画は適切でしたか</p>	◎	<p>警察への届け出を行い、安全に誘導できるように笛、旗を用いて十分な支援体制で開催した。救護班を前後に2人配置した。万一のため車を1台配備し救急対応が可能にした。予算も企業からの支援も得ることができ、計画どおり遂行した。</p>
<p>・事業を確実に実施するために適切な体制でしたか</p>	◎	<p>実行委員以外にも支援者を募り対応できた。コースの安全面、途中の休憩場所も計画し、体制はよかった。</p>
<p>・新たな成果や仕組みを生み出すなどの波及効果がありましたか</p>	◎	<p>5年度には西北包括支援センター圏域でも開催したいという波及効果あり。いずれは、4包括支援センターでも開催していけるとよい。</p>
<p>・他団体とうまく協働し、事業を進めることができましたか</p>	◎	<p>コース上の事業者や幼稚園、介護事業者など多くの協力を得て開催できた。児童館10館にも依頼し、子どもたちからの塗り絵を回収、展示した。</p>
<p>・行政や団体が単独で行うより、効果をあげることができましたか</p>	◎	<p>税金を使うことなく認知症啓発を実施した。NPOが事務局を担うことでフットワークよく関係団体や企業、市民とネットワークが作れた。</p>
<p>・事業を継続するための計画、工夫、協力体制ができていますか</p>	◎	<p>実行委員会方式で開催した。昨年度のモデル実施を活かして、本実施につなげた。毎月開催した実行委員会では、各所属機関から様々な意見をもらい工夫できた。</p>
<p>・自己資金の確保に努めていますか</p>	◎	<p>補助金は事業予算の3割を充当。他は賛助金を募ったり自己負担金200円を徴収した。</p>
<p>・費用対効果を考え、経費削減などの工夫をしましたか</p>	◎	<p>チラシや応援グッズを事務局で制作して経費削減に努めた。</p>
<p>・当初の目標、目的どおりの成果が得られましたか</p>	◎	<p>3年度にモデル実施し、4年度は市民や企業にも参加いただけ、認知症啓発活動ができた。子どもたちも間接的に関わることができ、より多くの方へ啓発できた。</p>

## 審査会委員評価

### 事業の良いと思われる点

- ・ 賛助金、寄付金により、ほぼ自立した運営ができたこと。
- ・ 認知症の啓発になった。
- ・ 当日の様子は楽しそうで、まちぐるみで行われ、いいイベントとなっている。

### 事業についてのアドバイス、期待する点

- ・ 家族で参加できるイベントにしてみても。
- ・ 大学に声をかけて、学生ボランティアを募ってみてはどうか。
- ・ 企業からは賛助金だけではなく、人的協力を求めてみてはどうか。
- ・ 土日の開催も検討すればターゲット層が広がり、参加者も増えるのではないかと。